

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
音楽Ⅱ		演習(実技)	堀切真寿美、前田聡子、梶原裕子 下山愛、豊田牧子、阿部宏絵
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	選択必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ピアノ実技 60% 歌唱 30% 授業への取り組み姿勢 10%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
子どもへの豊かな音楽経験を提供できる保育者として、保育・教育現場で歌われている童謡などの子どもの歌の弾き歌いができることを目標とする。			
[授業全体の内容の概要]			
音楽Ⅰ同様、一斉授業として、子どもの前で範唱するために、発声の基礎と童謡の歌唱法を修得する(30分)。また、コード伴奏法を学ぶグループレッスン(60分)と経験及び個人差の異なる学生に対応した複数教員で担当するピアノの個人レッスンを並行して行う。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年前期(30回中の15回)		
1	(一斉授業) 季節の歌(春)	(グループレッスン) へ長調「山の音楽家」	(個人レッスン) 学生の進度に応じた個人レッスン
2	季節の歌(春)	「たのしいね」	(個人レッスン)
3	季節の歌(春)	ニ長調「キラキラ星」 「あめふりくまのこ」	(個人レッスン)
4	季節の歌(春)	「あめふりくまのこ」	(個人レッスン)
5	季節の歌(春)	「すてきなパパ」「くじらのとけい」	(個人レッスン)
6	季節の歌(春)	実習に向けての課題曲	(個人レッスン)
7	季節の歌(夏)	ト長調「キラキラ星」 「おばけなんてないさ」	(個人レッスン)
8	季節の歌(夏)	「おばけなんてないさ」 「ヤッホッホ!夏休み」	(個人レッスン)
9	季節の歌(夏)	「にじ」	(個人レッスン)
10	季節の歌(夏)	「ニャニュニョのてんきよほう」	(個人レッスン)
11	小まとめ①(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」演奏3分程度)		
12	季節の歌(秋)	「ガンバリマンのうた」	(個人レッスン)
13	季節の歌(秋)	「きのこ」	(個人レッスン)
14	前期まとめ(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」演奏3分程度、歌唱)		
15	季節の歌(秋)	実習に向けての課題曲	(個人レッスン)
[使用テキスト・参考文献]			
(1)株式会社 学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版」 (2)チャイルド本社「こどものうた200」 (3)ひかりのくに「年齢別12か月こどものうた154」 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 必要に応じてプリントを配布する			
備考			
ピアノ演奏は、ホールにて発表を行う。また、歌唱演奏は、音楽表現教室にて発表を行う。			

実務経験[堀切]
平成12年3月 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業 平成14年3月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修了 平成15年3月 第48期 二期会オペラ研修所予科修了 平成16年3月 第48期 二期会オペラ研修所本科修了
在学中、学内オペラ團伊玖磨の「夕鶴」のつう役、ビゼーの「カルメン」のミカエラ役、モーツァルトの「フィガロの結婚」のロジーナ役に出演。また学内コンサート「Music Perception」や「ヌーン・コンサート」等ではソロ出演、ベートーベンの「第九」等の合唱にも出演した。 大学院修了後は、井上真弓氏が設立した声楽グループ「ナトゥーラ」に所属し、毎年さまざまなテーマで研究発表をする他、三郷ウェンズデーロータリークラブのクリスマス会等に出演し、現在に至る。
大学院修了まで声楽を井上真弓、山口道子、斎田正子、丹羽勝海の各氏に師事。 現在は、隔年行われる武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室の子どもたちのオペラ公演で副指揮をつとめた他、日本女子大学附属豊明幼稚園で幼稚園教諭の指導をされていた井上真弓氏に師事、研鑽を積んでいる。
井上真弓:武蔵野音楽大学講師、同大学附属人間音楽教室主管 二期会、二期会ロシア歌曲研究会、日本演奏連盟、日本リヒャルト・シュトラウス協会、各会員
実務経験[前田]
ヤマハのピアノ講師の経験を持つ。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
音楽Ⅱ		演習(実技)	堀切真寿美、前田聡子、梶原裕子 下山愛、豊田牧子、阿部宏絵
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	1単位	2年前期・2年後期	選択必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ピアノ実技 60% 歌唱 30% 授業への取り組み姿勢 10%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
子どもへの豊かな音楽経験を提供できる保育者として、保育・教育現場で歌われている童謡などの子どもの歌の弾き歌いができることを目標とする。			
[授業全体の内容の概要]			
音楽Ⅰ同様、一斉授業として、子どもの前で範唱するために、発声の基礎と童謡の歌唱法を修得する(30分)。また、コード伴奏法を学ぶグループレッスン(60分)と経験及び個人差の異なる学生に対応した複数教員で担当するピアノの個人レッスンを並行して行う。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年後期(30回中の15回)		
1	(合同授業) 季節の歌(秋)	(グループレッスン) 「おもちゃのチャチャチャ」	(個人レッスン) 学生の進度に応じた個人レッスン
2	季節の歌(秋)	「そうだったらいいのにな」	(個人レッスン)
3	小まとめ②(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」演奏5分程度)		
4	季節の歌(秋)	「ちいさな世界」	(個人レッスン)
5	季節の歌(秋)	「ふしぎなポケット」	(個人レッスン)
6	季節の歌(秋)	「線路は続くよどこまでも」	(個人レッスン)
7	小まとめ③(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」演奏5分程度)		
8	季節の歌(冬)	「We Wish You A Mery Chrisutmas」	(個人レッスン)
9	季節の歌(冬)	「あわてんぼうのサンタクロース」	(個人レッスン)
10	小まとめ④(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」演奏5分程度)		
11	合唱	「さよならマーチ」	(個人レッスン)
12	合唱	「あしたははれる」	(個人レッスン)
13	合唱	「みんなともだち」	(個人レッスン)
14	合唱	「さよならぼくたちのようちえん」	(個人レッスン)
15	後期まとめ(テキスト(1)~(3)より任意の「子どものうた」演奏5分程度、歌唱)		
[使用テキスト・参考文献]			
(1)株式会社 学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版」 (2)チャイルド本社「こどものうた200」 (3)ひかりのくに「年齢別12か月こどものうた154」 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 必要に応じてプリントを配布する			
備考			
ピアノ演奏は、ホールにて発表を行う。また、歌唱演奏は、音楽表現教室にて発表を行う。			

実務経験[堀切]
<p>平成12年3月 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業 平成14年3月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修了 平成15年3月 第48期 二期会オペラ研修所予科修了 平成16年3月 第48期 二期会オペラ研修所本科修了</p> <p>在学中、学内オペラ團伊玖磨の「夕鶴」のつう役、ビゼーの「カルメン」のミカエラ役、モーツァルトの「フィガロの結婚」のロジーナ役に出演。また学内コンサート「Music Perception」や「ヌーン・コンサート」等ではソロ出演、ベートーベンの「第九」等の合唱にも出演した。</p> <p>大学院修了後は、井上真弓氏が設立した声楽グループ「ナトゥーラ」に所属し、毎年さまざまなテーマで研究発表をする他、三郷ウェンズデーロータリークラブのクリスマス会等に出演し、現在に至る。</p> <p>大学院修了まで声楽を井上真弓、山口道子、斎田正子、丹羽勝海の各氏に師事。 現在は、隔年行われる武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室の子どもたちのオペラ公演で副指揮をつとめた他、日本女子大学附属豊明幼稚園で幼稚園教諭の指導をされていた井上真弓氏に師事、研鑽を積んでいる。</p> <p>井上真弓:武蔵野音楽大学講師、同大学附属人間音楽教室主管 二期会、二期会ロシア歌曲研究会、日本演奏連盟、日本リヒャルト・シュトラウス協会、各会員</p>
実務経験[前田]
<p>ヤマハのピアノ講師の経験を持つ。</p>

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子ども家庭支援論		講義	田中 賀奈子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		レポート・発表 50% 授業内確認テスト 50%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>現代社会において、保育士は子どもの保育だけでなく、家庭や家族に視点をあて支援していくことが求められている。社会の変容に伴う家族の変化や関係について知り、子ども家庭支援に纏わる法律や制度を理解することをねらいとし、保育士による子ども家庭支援の意義や役割について学ぶことを目的とする。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>この授業では、子育て家庭のニーズや支援の現状、課題を理解し、これまでに実施されてきた子ども家庭支援の制度や政策がどのように活かされてきたかを学ぶ。また学生自身にとっての家族観を明確にすることから、多様性を増し変化し続けている現代の家庭を理解し、その支援について学ぶ。</p>			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]			
<p>授業を通し、学生自身の家族観を明確にし、現代の家庭が抱える様々なニーズや支援状況を学ぶことから、保育士としての子ども家庭支援の役割を理解することを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	子ども家庭支援の必要性和機能		
2	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		
3	子育て家庭の福祉を図るための社会資源		
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		
5	子どもの育ちの喜びの共有		
6	保育士に求められる基本的態度(1)		
7	保育士に求められる基本的態度(2)		
8	保育士による地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力		
9	保育所での子ども家庭支援の内容と対象		
10	保育所等を利用する子どもの家庭への支援		
11	地域の子育て家庭への支援		
12	要保護児童等及びその家庭に対する支援		
13	子ども家庭支援に関する課題		
14	まとめ		
15	子ども家庭支援に関する展望		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>『子ども家庭支援論』佐藤ちひろ・松倉佳子・原信夫編著 株式会社 北樹出版 授業中に適宜資料を配布する</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子ども家庭支援の心理学		講義	田中 元基
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業内確認テスト(70%)、授業内小レポート(30%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
本授業は、心理学的な立場から、子どもや現代の子育て中の家庭に関する支援を行うために必要な知識について学ぶことを目的としている。			
[授業全体の内容の概要]			
本授業では、子ども及び子育て中の家庭を支援する際に重要になる、生涯発達心理学、家族・家庭を取り巻く課題と支援、子どもの心身の健康と保健について取りあげる。講義形式で授業を行うとともに、事例に基づくディスカッションなどを行う。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達における各発達段階の特徴及び課題について要約して説明できる。 2. 子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、様々な子育て家庭の事例を包括的に理解・説明できる。 3. 子どもの精神保健に対する基本的な知識及びその課題を学び、要約して説明できる。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	オリエンテーション・生涯発達の代表的理論について		
2	生涯発達①：乳児期の発達とその特徴		
3	生涯発達②：幼児期の発達とその特徴		
4	生涯発達③：学童期・青年期の発達とその特徴		
5	生涯発達④：成人期・老年期の発達とその特徴		
6	家族・家庭理解①：家族システムと家族発達		
7	家族・家庭理解②：親子・家族関係の理解		
8	家族・家庭理解③：子育て経験と親としての育ち		
9	子育て家庭の現状と課題①：子育て環境の社会状況的变化		
10	子育て家庭の現状と課題②：子育て世代のライフコースとワーク・ライフ・バランス		
11	子育て家庭の現状と課題③：多様な子育て家庭の理解とその支援		
12	子育て家庭の現状と課題④：特別な配慮を必要とする家庭への支援		
13	子どもの精神保健とその課題①：子どもを取り巻く生活・生育環境とその影響		
14	子どもの精神保健とその課題②：子どもの心理的健康		
15	授業内確認テストとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト 本郷一夫・神谷哲司(編) 『子ども家庭支援の心理学』建帛社、2019.			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子どもの食と栄養Ⅱ		演習	鈴木 一子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業を通してのレポート課題(20%) 授業への取り組み態度(10%) 授業内確認テスト(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
1 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え、その内容など理解する。 2 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 3 関連するガイドライン、近年のデータを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
・「食育基本法」の目的と意義について学び、保育所・幼稚園等が家庭や地域と連携をとりながら、食を通して子どもたちの発達や保護者の子育て支援をどのように支援することができるか学ぶ。 ・児童福祉施設の特徴を捉えたうえで、各施設における栄養・食生活のあり方、家庭との連携について学ぶ。 ・栄養状態が密接に関連する疾病についての食事支援の方法と栄養教育について理解する。食物アレルギーの子どもへの対応については、保育所におけるアレルギー対応ガイドを参照し、最新の正しい知識を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え、その内容など理解し、保育者として必要な姿勢、態度、保護者への援助の仕方を身につける。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・関連するガイドライン、近年のデータを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	保育における食育の意義、目的と基本的な考え方		
2	食育の内容と計画及び評価		
3	食育のための環境(保育所、幼稚園における食育指針・学校における食育の推進)		
4	調理実習(離乳食)① および衛生管理についての講義		
5	食育の環境(地域の関係機関や職員間の連携)		
6	食生活指導及び食を通じた保護者への支援		
7	調理実習(間食)② およびかんしょくの必要性和意義、保育者としての対応について講義		
8	家庭における食事と栄養。食に関する支援		
9	児童福祉施設における食事と栄養①(食事の形態、給食のあり方、栄養管理)		
10	児童福祉施設における食事と栄養②(給食の実際・・・保育所、乳児院、児童養護施設など)		
11	疾病及び体調不良の子どもへの対応		
12	食物アレルギーのある子どもへの対応		
13	調理実習③ および保育所における食物アレルギー対応		
14	障害のある子どもへの対応。まとめ		
15	後期の振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
「子どもの食と栄養」水野清子他5名編集 診断と治療社、食品成分表・五訂補、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容総論		演習	植松 啓子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		小テスト・提出物等を総合して評価する	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
保育内容を中心に、保育の場としての保育園・こども園・幼稚園の実際から保育内容を総合的に捉えていく。 多様な保育の展開を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
・幼児教育は子ども達の学びを触発しそれを援助し子ども達の発達を促す営みである。子どもの自発性・主体性を最大限に生かす「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」保育者が「なぜ」「何を」「いつどの場面で」「どのように」指導するかということを具体例やDVDグループワークを交えて実践力の習得を目指す。 ・多様な保育の展開に触れ、社会的な役割や機能などから、地域・家庭などの連携がもたらす効果を検証していく。発達に必要な体験を積み重ねていけるように、実践事例を通して保育の総論を考える。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
保育内容の変遷や幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育の基本を理解し、保育内容を総合的に捉える視点を獲得する。 子どもの発達や生活を踏まえた環境設定や保育の方法など保育実践力を習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数			
1	はじめに 保育内容総論とは就学前教育について等、幼稚園教育の基本と内容、保護者との連携地域家庭関係機関との連携など子どもを取り巻く環境等を学ぶ		
2	保育内容の歴史の変遷 保育とはどのような営みか?環境を通しての教育遊びを通しての指導等を学ぶ。幼児教育の基本と方法、指導計画はどのように認識し保育の場でどのように活用していくか学ぶ		
3	環境を通しての教育自発的主体的に環境と関わる事について事例「ヤマモモジュースづくり」を通し、グループで話し合い自分の思いや相手に意見に耳を傾けて学ぶ		
4	幼児の主体的な生活を基盤とする保育、幼児を誘う保育として事例「家族ごっこが楽しい」「お弁当屋さんです」を通して学生と意見交換して実践力を学ぶ		
5	遊びを通しての指導 子どもらしさ・遊び・学ぶ力として事例「水を流しても崩れないトンネルを作りたい」を学生と意見交換して実践力を学ぶ		
6	領域「環境・表現・言語・健康・人間関係」とは何か、5領域が絡み合うことの意味と遊びの特性を DVD 視聴しながら意見交換しグループで発表する		
7	保育内容の変遷明治期から大正期についてグループで調べ現代保育における課題を見つける。 「あなたならどうしますか?」事例から考える		
8	保育内容の変遷明治期から大正期から現在についてグループで調べ発表をする。 平成30年度からの教育要領「育みたい資質・能力」の保育における課題を見つける		
9	友だちと関わる遊び 気づく・試す・考える 遊びの中で学びをはぐくむ等 DVD 視聴しながら意見交換しグループで遊びについて感じたことを発表する		
10	世界的に注目している非認知能力を高める上で、興味・関心を持ち粘り強く仲間と協調して取り組む力、姿勢、集中力等を理解し保育に生かす事を学ぶ		
11	模擬保育「魔法の宅急便ごっこ」等具体的なテーマで指導案導を作成して模擬保育を 反省評価をする。 5歳児修了時まで育ててほしい10の姿を学ぶ		
12	幼稚園5歳児の保育のアプローチカリキュラムと小学校におけるスタートカリキュラムの意義と重要性の基本的なことを学ぶ		
13	幼稚園5歳児の保育のアプローチカリキュラムと小学校におけるスタートカリキュラムの具体的な内容をグループで実践し意見交換をする。		
14	幼稚園5歳児の保育のアプローチカリキュラムと小学校におけるスタートカリキュラムの具体的な内容をグループで実践し意見交換をする。		
15	まとめ 幼稚園・保育園・認定子ども園について各自調べ学習をし、グループで話しあい学んだ事を発表する		
[使用テキスト・参考文献]			
「幼児教育の方法」(保育の内容・方法を知る) 北大路書房 小田豊・青井倫子 フレーベル館 幼稚園教育要領解説 文部科学省「保育内容総論」ミネルヴァ書房			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
人間関係		演習	北田 沙也加
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、生活や遊びの中で育まれる乳幼児の「人と関わる力」を捉え、その育ちを支える援助を考えようとしたかグループワークや発表、指導案等で評価する。また幼稚園教育要領等に示された教育・保育の基本を踏まえて保育を構想しようとするかについても評価する。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児期の生活のあり方と発達に即して理解すると共に、領域相互の関連を踏まえて具体的な保育を展開するための基礎的知識及び理論を身につける。			
[授業全体の内容の概要]			
映像資料や最新の研究・調査資料を用いて幼児教育・保育の現場における事例を基にグループで話し合うなど、グループワークやディスカッションを通して、領域「人間関係」について理解を深めると共に、領域「人間関係」の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、実際の乳幼児の生活・遊びの様子から人間関係を捉え、支える保育を考えられるようにする。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 2. 乳幼児を取り巻く人間関係や人と関わる力の発達を理解し、具体的な生活・遊び場面における乳幼児の心情や保育のねらいを読み取り、支援のあり方について考えることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	オリエンテーション、現代の乳幼児を取り巻く人間関係		
2	領域「人間関係」を概観する		
3	0歳児期の人間関係を理解する		
4	1～2歳児期の人間関係を理解する		
5	3～5歳児期の人間関係を理解する		
6	保育者との関わりと乳幼児の発達		
7	子ども同士の関わりと特徴		
8	子どもの自立を支える保育		
9	けんかやいざこざの捉え方と援助		
10	協同的な遊び・活動を支える保育①事例検討		
11	協同的な遊び・活動を支える保育②指導案作成		
12	気になる子どもの捉え方と支援①落ち着きのない子		
13	気になる子どもの捉え方と支援②対人的トラブルの多い子		
14	幼小の接続期や交流活動を考える		
15	まとめ、人間関係をめぐる現代的課題について理解する		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト：菊地篤子(2019年) ワークで学ぶ保育内容「人間関係」 みらい 参考文献：幼稚園教育要領(平成29年度3月告示、文部科学省)、保育所保育指針(平成29年度3月告示、厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年度3月告示、内閣府/文部科学省/厚生労働省)			
備考			
定期試験は実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
表現Ⅱ		演習	森 大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年前期	選択必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		課題提出物 30% 授業態度 10% 授業内確認小テスト 60%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>幼児期の造形表現について、5領域「表現」の位置づけと意味内容を理解し指導できる技能を習得する。想像力・創造力を鍛え、柔軟な発想力を身につける。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>幼児の造形表現の特性を理解し、保育者として優れた造形表現指導を行うことができる態度・能力を身に付ける。そのために平面・立体・ミクストメディア等の実践的な作品制作を通して学んでいく。そして作品制作毎に鑑賞・講評をすることで教育・保育現場における幼児の多様な表現の理解を深める。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>造形表現を通じた幼児の発達や成長を捉え、自ら指導することが出来る技能を習得しているか。 幼児の多様な表現を理解しながら、自ら課題を設定し実践することができるか。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	15回		
1	オリエンテーション(5領域「表現」の位置づけと意味内容について)		
2	いろいろな素材に親しみ、工夫して表現する。(ビー玉アート)		
3	表現することの楽しさを実感する制作(ゾートロープ)		
4	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む制作。(シャボン玉アート)		
5	乳児と幼児それぞれの表現について。		
6	生活の中でイメージを豊かにし様々な表現を楽しむ。(アルミホイルアート)		
7	素材の扱いを工夫して様々な表現を楽しむ制作。(クロマトアート)		
8	ICTを活用した制作について(ライトアート)		
9	好奇心を引き出す制作について(トリックアート)		
10	自然との関わり。風景を取り入れた制作について(ビニールキャンバス)		
11	絵本制作を通じた造形表現の総括①(題材設定、計画)		
12	絵本制作を通じた造形表現の総括②(これまで習得した技能を活かした制作)		
13	絵本制作を通じた造形表現の総括③(発表、鑑賞)		
14	造形表現のまとめ		
15	振り返り		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>保育内容 表現(2018年版 光生館) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

【個展】

「森 大 個展」 「秋山画廊」 東京 2011年12月
 「森 大 -maquette-」 「キアズマ珈琲 gallery」 東京 2010年10月
 「森 大 展 metabolism」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月
 「森 大 個展」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年3月

【グループ展】

「横浜の森美術展6」 「横浜動物の森公園予定地」 横浜 2013年10月
 「11 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2010年9月
 「ANBD Asia Network Beyond Design 2010」 清州 (韓国)・台南 (台湾)・天津 (中国)・横浜 (日本)
 2010年7月
 「ANBD Asia Network Beyond Design 2009」 天安 (韓国)・台南 (台湾)・天津 (中国)・奈良 (日本)
 2009年7月
 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」 「青梅市西分町公会堂」 東京 2007年11月
 「第7回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT展」 「グリーンホール相模大野」 神奈川 2007年9月
 「07 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2007年3月
 「maquette展」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月
 「cm3 空間表現三人展」 「明星大学展示室」 東京 2005年8月
 「千崎千恵夫・森 大展」 「GALERIE SOL」 東京 2004年11月
 「青梅野外展」 「GALERIA RASEN」 東京 2002年7月
 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」 「GALERIA RASEN」 東京 2001年11月
 「WORKS2000」 「文房堂ギャラリー」 東京 2000年2月
 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム'99」 神奈川県藤野町市街地 1999年8月
 「三人展」 「Gallery KARIN スペースⅡ」 東京 1998年3月

【他】

Japan Fashion Week in TOKYO 2008
 (株) キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター 「国立代々木競技場第一体育館」 東京
 2008年2月
 「さいたま新都心駅前パブリックアート」 さいたま新都心駅前広場 恒久設置 2000年5月

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容の理解と方法 (人間関係)		演習	綿貫 文野
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		授業内での確認小テスト(60%) グループ討論への参加状況(20%) 課題レポート(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の対人関係の発達を理解し、多様な人物と関わる乳幼児の「人間関係」を支える保育実践を考えることができる。 			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・VTRやポートフォリオ等を活用して、「人間関係」に関する事例を読み解き、グループディスカッションやロールプレイングを行う。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の発達過程を理解しながら、「人間関係」について説明できる。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	遊びの中での人との関わりと保育者の役割①イメージの共有		
2	遊びの中での人との関わりと保育者の役割②自己主張・葛藤・育ちあい		
3	遊びの中での人との関わりと保育者の役割③協同的な遊び		
4	協同的な遊びの中で育ちあう保育を考える①運動会での協同的な活動を考える		
5	協同的な遊びの中で育ちあう保育を考える②協同的な活動の指導計画を作成する		
6	協同的な遊びの中で育ちあう保育を考える③指導計画の発表・振り返りを行う		
7	気になる子どもと他児とのつながり①気になる子どもの心情について理解する		
8	気になる子どもと他児とのつながり②個と集団の育ちを支える保育を考える		
9	幼小接続期を考える		
10	幼小の交流活動を考える		
11	地域の中の幼稚園・保育園・こども園や地域の人との関わりについて考える		
12	保護者支援と保育者の役割と園内の人間関係について考える。		
13	人間関係をめぐる現代的諸問題		
14	「保育者の人間関係」についての振り返りと授業内(確認)小テスト		
15	保育者としての自分磨き(発表)		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト:酒井幸子(編)(2012年) 保育内容「人間関係」 萌文書林 参考文献:保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

保育者としての勤務経験を持つ教員が、事例を読み解きながら、その解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
特別支援教育・保育総論		演習	関谷 眞澄
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		内容の習得度、知識をもとに自分なりの考えを述べる力を評価する。 課題レポート(30%)、確認小試験(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
障害を抱えるこどもやそのほかにも援助を必要とするこどもの発達や親(保護者)の子育てに対し、適切な支援ができる技能と専門職としての意識や倫理観を身につけることが、保育者(保育士及び幼稚園教諭)としての責務であることを認識すること、さらに支援に必要な基本的な知識の習得と自分なりの考えや視点を持てるようになることを目的・ねらいとする。			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・「障害とは何か」、自分なりの視点を持つ。 ・各障害の特性を理解し、発達への援助の視点や知識を理解する。 ・保護者や家族の心理を理解し、援助の視点や方法について学ぶ。 ・保育の目的や保育者の役割を理解し、障害児保育の理念や意義、方法などについて学ぶ。 ・講義形式を中心とするがワークシートや振り返りシート、新聞記事などを活用していく。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育の理念や制度・形態等を理解する。 ・障害の特性を理解し、基本的な援助方法等を身につける。 ・配慮が必要なこどもや家庭について特性や状況、基本的な援助方法を理解する。 ・家族の心情やストレス、援助の基本について理解する。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年前期		
1	オリエンテーション 保育とは (意味と役割について)		
2	保育とは (こども観とこどもの理解について)		
3	保育とは (理念と責務について)		
4	「障害」とは (意味と概念について)		
5	「障害」とは (障害構造について)		
6	「障害」とは (健康、いのちの重みについて)		
7	障害特性と発達への援助(発達の捉え方について)		
8	障害特性と発達への援助(援助の原則について)		
9	障害特性と発達への援助(知的障害児の特性の理解について)		
10	障害特性と発達への援助(知的障害児の保育場面での配慮について)		
11	障害特性と発達への援助(肢体不自由児の特性の理解について)		
12	障害特性と発達への援助(肢体不自由児の保育場面での配慮について)		
13	障害特性と発達への援助(視覚障害児の特性の理解について)		
14	障害特性と発達への援助(視覚障害児の保育場面での配慮について)		
15	中間の振り返りとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
[使用テキスト]			
『僕のお姉さん』 丘修三(偕成社) コンパクト版保育者養成シリーズ新版 『障害との共存』 関谷眞澄(クオリティケア)			
[参考文献]			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
特別支援教育・保育総論		演習	関谷 眞澄
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		内容の習得度、知識をもとに自分なりの考えを述べる力を評価する。 課題レポート(30%)、確認小試験(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
障害を抱える子どもやそのほかにも援助を必要とする子どもの発達や親(保護者)の子育てに対し、適切な支援ができる技能と専門職としての意識や倫理観を身につけることが、保育者(保育士及び幼稚園教諭)としての責務であることを認識すること、さらに支援に必要な基本的な知識の習得と自分なりの考えや視点を持てるようになることを目的・ねらいとする。			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・「障害とは何か」、自分なりの視点を持つ。 ・各障害の特性を理解し、発達への援助の視点や知識を理解する。 ・保護者や家族の心理を理解し、援助の視点や方法について学ぶ。 ・保育の目的や保育者の役割を理解し、障害児保育の理念や意義、方法などについて学ぶ。 ・講義形式を中心とするがワークシートや振り返りシート、新聞記事などを活用していく。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育の理念や制度・形態等を理解する。 ・障害の特性を理解し、基本的な援助方法を身につける。 ・配慮が必要な子どもや家庭について特性や状況、基本的な援助方法を理解する。 ・家族の心情やストレス、援助の基本について理解する。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	2年後期		
1	障害特性と発達への援助(聴覚障害児の特性の理解について)		
2	障害特性と発達への援助(聴覚障害児の保育場面での配慮について)		
3	障害特性と発達への援助(発達障害児の特性の理解について)		
4	障害特性と発達への援助(発達障害児の保育場面での配慮について)		
5	障害特性と発達への援助(配慮が必要な子への援助について 病虚弱児等)		
6	障害特性と発達への援助(補足とまとめ)		
7	家族・保護者への支援(家族の心情と援助について)		
8	家族・保護者への支援(きょうだいの心情と援助について)		
9	家族・保護者への支援(母国語や貧困問題、病弱等、特別な支援および教育的ニーズを必要とする子どもとその家族について)		
10	障害児保育とは(ノーマライゼーション、インクルーシブ等の理念や制度について)		
11	障害児保育とは(対象、形態、歴史的変遷について)		
12	障害児保育とは(障害児のライフコースについて)		
13	障害児保育とは(現状と課題について)		
14	保育計画(個別の指導計画及び教育支援計画)と支援体制		
15	振り返りとまとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
[使用テキスト]			
『僕のお姉さん』 丘修三(偕成社) コンパクト版保育者養成シリーズ新版 『障害との共存』 関谷眞澄(クオリティケア)			
[参考文献]			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
社会的養護Ⅱ		演習	初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		課題レポート(提出状況と内容)や、授業内確認小テスト、グループ討議での発表により評価する。 課題レポート(40点) 授業内小テスト(40点) グループ討議発表(20点)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
社会的養・施設が目指そうとしている方向性と、施設における家族・子どもへの支援のあり方を「子どもの最善の利益」の視点から学び、保育士の専門性に関わる知識・技術を修得することを目的とする。			
[授業全体の内容の概要]			
施設養護における保育士の社会的養護の支援方法(実践)など、基本的な内容について事例をもとに、子どもの権利擁護の視点から理解し演習によって深める。さらに、グループ討議や合意形成、発表を通しチームワークやコミュニケーション力を養い、施設保育としての専門性・人間性を高める。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
社会的養護実践に関する専門的視点と資質を構築する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	オリエンテーション①授業の目的、目標、進め方の説明と諸注意②評価方法の説明、社会的養護の理念や法制度を再確認する。社会的養護の理念や法制度を再確認する。		
2	社会的養護を必要とする子どもの暮らしの実際と、権利擁護について学ぶ。		
3	社会的養護にかかわる保育士の、役割や倫理、専門性について学ぶ。		
4	社会的養護にかかわる相談支援や、施設における支援の実際を事例をもとに学ぶ。		
5	社会的養護実践における記録の必要性和、その書き方、評価制度について学び、実際に記載体験をする。		
6	虐待による児童養護施設入所児の家族再統合までのプロセスを学ぶ。グループで事例の背景を読み解き、発表する。		
7	事例をもとに、グループで乳児院における個別支援計画を作成し発表する。立案過程において、保育士の支援や記録、他機関連携について学ぶ。		
8	事例をもとに、児童自立支援施設で暮らす子どもたちが、どのような支援を受けながら自立を目指しているかを学ぶ。「枠のある生活」について、グループで話し合い発表する。		
9	障害児入所施設(福祉型)における生活支援の事例をもとに、障害特性に配慮した取り組みや、周囲との連携について学ぶ。それぞれのライフステージに応じた「その子らしい生活」について、グループで話し合い発表する。障害児入所施設(福祉型)における生活支援の事例をもとに、障害特性に配慮した取り組みや、周囲との連携について学ぶ。それぞれのライフステージに応じた「その子らしい生活」について、グループで話し合い発表する。		
10	情緒が不安定な子どもへの児童心理治療施設での治療的支援を学ぶ。保育士同士だけでなく、他職種との協働のあり方を理解する。		
11	家庭養育が望めない子どもの事例をもとに、里親委託までのプロセスやその後の支援を学ぶ。里親養育のあり方を理解する。家庭養護の必要性をグループで話し合い発表する。		
12	DV被害を受け、母子生活支援施設入所をした母子への支援事例を通し、親子の自立のプロセスを学ぶ。当事者のエンパワメントについて話し合い発表する。		
13	傾聴、受容、共感について学び、具体的な子どもへのかかわり方を事例をもとにロールプレイを通し実感する。		
14	被措置児童等虐待や子ども間暴力を防ぐための環境や支援体制について、実話をもとに学ぶ。確認小テスト		
15	子どもとの距離の取り方や共依存バーンアウトの危険性について、ロールプレイを通し学ぶ社会的養護にかかわる専門保育士職として、今後の課題と展望を考える。		
[使用テキスト・参考文献]			
演習・保育と社会的養護実践—社会的養護Ⅱ—(2019)橋本好市、原田旬哉編集、みらい 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(2018) 新たな社会的養護への挑戦—すべての子どもと歩む未来へ—(2017)全国児童養護協議会			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子育て支援		演習	田中 賀奈子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		レポート課題 30%、発表 30%、授業内確認テスト 40%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>保育士は専門職として、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等といった支援(保育相談支援)を行っていくことが求められている。よって、保育相談支援の意義や基本的視点を理解することを目的とし、同時に、保育士が行う子育て支援についての事例検討や課題に対するグループワークを行うことにより、実践的に学び、人と関わる力を身に付けていくことをねらいとする。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>この授業では、保育相談支援を行う保育士として必要となる、保護者にかかわる基本的な姿勢、態度、及び、子育て支援の体制について学び、理解する。そのため、保育士が行う子育て支援の様々な事例を用いた話し合いやグループワークを実施し、レポートや発表の機会を設ける。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>事例や話し合いを通し、学生自身が互いを理解しようとする姿勢を実践していくことから、観る力、聴く力、待つ力、受けとめる力、伝える力等、人と関わる姿勢や態度を学び、保育士が行う子育て支援の方法や技術を身につけていくことを達成目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	子育て支援とは		
2	子育て支援の意義		
3	子育て支援の基本的価値・倫理		
4	子育て支援の基本的姿勢		
5	子育て支援の基本的技術		
6	園内・園外との連携と社会資源		
7	記録・評価・研修		
8	日常会話を活用した子育て支援		
9	文書を活用した子育て支援		
10	行事などを活用した子育て支援		
11	環境を活用した子育て支援		
12	地域子育て支援拠点における支援		
13	入所・通所施設における子育て支援		
14	まとめ		
15	今後の課題		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 二宮祐子 株式会社 萌文書林 授業中に適宜資料を配布する</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育相談		講義	齊藤 崇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	2年後期	選択必修(保)、必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		確認小テスト(40%)、レポート内容(40%)、ロールプレイング等の内容や参加姿勢(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
教育相談についての基本的知識を学ぶ、ウンセリングについての基本的知識を学ぶ、ロールプレイングを通して、カウンセリング・マインドについて理解を深める。			
[授業全体の内容の概要]			
教育相談についての代表的な考え方や理論など講義を通して学ぶ、子どもの発達・保護者支援についての知識を、講義を通して学ぶ、ロールプレイングを行い、自己理解を深める、教育相談とカウンセリングについての違いを学び、幼稚園教諭・保育士としての在り方を理解する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
教育相談の基本的な考え方やカウンセリング・マインドの基本的知識が身につく。また、子どもの発達の主要な理論を説明でき、児童生徒をめぐる問題である発達障害や児童虐待、いじめ、不登校の基本的な知識を活用し、子どもの課題を考えることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	教育相談とは①-教育相談の機能-		
2	教育相談とは②-教育相談の対象-		
3	カウンセリングとは①-カウンセラーの3条件・カウンセリング・マインドとは-		
4	カウンセリングとは②-傾聴のスキル-		
5	子どもの発達を捉える①-ピアジェの認知的発達-		
6	子どもの発達を捉える②-エリクソンの発達段階-		
7	話を聴くための基本的な心構え		
8	ロールプレイング-聴く態度・聴かない態度-		
9	児童生徒をめぐる問題①-発達障害・児童虐待-		
10	児童生徒をめぐる問題②-いじめ・不登校-		
11	保護者支援		
12	関係者・機関との連携-幼稚園・学校内-		
13	関係者・機関との連携-他機関(児童相談所、教育相談所、医療機関)-		
14	ストレスマネジメント		
15	授業まとめ-教育相談の実際-		
[使用テキスト・参考文献]			
[使用テキスト] 「教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門」 西見奈子 編著 黒山竜太・下田芳幸・松尾伸一 萌文書林、 「保育士・幼稚園教諭のための 保護者支援 保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援【新版】」 永野典詞・岸本元気 著 風鳴舎			
[参考文献] 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実践演習		演習	綿貫 文野
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
総合演習		授業内での確認小テスト(60%) グループ討論への参加状況(20%) 課題レポート(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる資質や専門性について理解する。そこで、現代の子どもを取り巻く環境や、母子関係、家族のあり方などの課題について現代を分析し、幼稚園や保育園の現場における保育者として、問題点の判断と適切に行動し対応する仕方を修得する。 			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で生じる問題や課題を解決していくために、自主的に情報を収集することを学習する。 ・子どもを取り巻く環境や課題を分析・考察・検討を行うことにより、問題解決のための対応・判断方法について学習する。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育カリキュラムについて説明できる。 ・保育に関する自発的な学習能力を習得する。(自主的に各自が責任を持ってグループのディスカッションに参加し学習する) 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年前期		
1	保育士の意義や役割、職務内容など保育実習等における体験と結びつけながら振り返る。(グループ討論)		
2	子どもに対する責任、倫理を実習等における体験と結びつけながら振り返る。(グループ討議)		
3	保育の場における保育実践力(環境を構成する力)		
4	保育の場における保育実践力(子どもの自発性・能動性を引き出す環境)		
5	保育の場における保育実践力(実習では遊びの意義をどう捉えていたか)		
6	保育現場で気になる子どもの行動の理解(グループ討論)		
7	保育現場で必要な援助(ロールプレイング)		
8	保育の目標とカリキュラム(全体的な計画とは何か)		
9	指導計画(長期、短期計画の作成方法について学ぶ)		
10	環境を通して行う保育(0歳児, 1歳児以上3歳未満児)(3, 4, 5歳児)		
11	環境を通して行う保育(3, 4, 5歳児)		
12	子どもの思いの理解と保育士の願い(事例を通して学ぶ)		
13	子ども同士のトラブルや特別な配慮を必要とする子どもに対する援助と連携(事例を通して学ぶ)		
14	保育実践力についての振り返りと授業内(確認)小テスト		
15	自己課題を明確にし、自分の保育者像を持つ(発表)		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト:「これまでの学びと保育者への歩み」わかば社 参考文献:保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

保育所での勤務経験を活かし、現場の課題に触れ、分析、考察、検討を行いながら、より実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実践演習		演習	綿貫 文野
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
総合演習		授業内での確認小テスト(60%) グループ討論への参加状況(20%) 課題レポート(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての使命や役割を学び、職業人として自立していくため様々な保育実践に触れて保育実践力を養うことを目的とする。 ・保育に関する自発的な学習能力を習得する。(自主的に各自が責任を持ってグループのディスカッションに参加し学習する) 			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・実際の保育の中で生じる問題や課題を解決していくために、事例をグループで話し合いながら分析・考察・検討を行い、問題解決のための判断方法や対応について学習する。 ・保育者の使命感・責任感・倫理観等、社会性・対人能力、子ども理解・クラス運営、保育内容と援助について学ぶ。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の専門性について説明できる。 ・保育に関する自発的な学習能力を習得する。(自主的に各自が責任を持ってグループのディスカッションに参加し学習する) 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年後期		
1	保育の振り返り(実習記録を振り返る)		
2	事例を用いた振り返りの実例 ①(グループ討論)		
3	事例記録を共有し、グループ討論を行う。		
4	保護者及び地域との関係づくり(保護者との協働とその実際)		
5	幼保小の接続の実際と課題、接続の体制づくり		
6	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(ロールプレイング)		
7	幼児期と児童期の発達の特徴を踏まえ、保育者の視点から考える。(ロールプレイング)		
8	園の安全管理について(保育所保育指針における安全管理)		
9	事故防止への取り組み、訓練の実施と緊急時の対応、災害への備え		
10	園の安全管理の内容(日常の安全管理)		
11	保育者の専門性について(グループ討論・発表)		
12	倫理綱領から保育者の倫理を学ぶ(ロールプレイング)		
13	保育に関する現代的課題の分析に基づく探求(ロールプレイング)		
14	保育者としての専門性の振り返りと授業内(確認)小テスト		
15	自己の保育者としての課題を明確にし、自分の保育者像を持つ(発表)		
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト:「これまでの学びと保育者への歩み」わかば社 参考文献:保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験

保育所での勤務経験を活かし、現場の課題に触れ、分析、考察、検討を行いながら、より実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教職実践演習 (幼)		演習	沖田健次・植松啓子・張愛子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修 (幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
その他		テーマごとに担当教員が観点別に到達度を評価し、未修得な部分については適宜補償教育を行う。全ての授業終了後、テーマごとの担当教員による評価(60%)と、学生のレポート等(40%)を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身についているかを確認し、単位認定を行う。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育実践に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>教職課程の「学びの軌跡の集大成」として教員として最小限必要な資質能力の修得について確認するとともに自己の課題を見出し必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図るものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に対する使命感を持ち、子どもたちとの関わりを通して教育観や自己認識を深め、教師として成長していく姿勢を身につける。 ・組織の一員としての自覚を持ち、目的や状況に応じて他の人と協力して適切に行動することができる。 ・保護者や地域の人と良好な人間関係を築くのに必要な基礎的知識を持ち、教員としての適切な行動を考えることができる。 ・子どもに対し受容的な態度で接することができる。子どもの発達や心身の状況に応じ、適切な指導を行うことができる。学習(主活動)の指導に必要な基本的知識や技能を身につける。 ・子どもの発達状況や学級の状態に応じて、指導の方法や形態等を適切に工夫するための教育活動の把握および分析の手法を身につける。 ・教員としての適性について自己認識を深め、課題を把握した長期的取り組みができる。 			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義と役割・教員に必要とされる資質能力について理解しているか確認する。(講義・グループ討議) ・フィールドワークや事例研究を通じて、子ども理解の重要性や教員が担う責任の重さを理解しているか確認する。(講義・事例研究) ・事例研究やフィールドワーク等を通じて学級担任の役割や実務、他教員との協力の在り方などを習得しているか確認する。(フィールドワーク・グループ討議) ・幼児期の人間関係の把握と指導として、子どもの発達や心身の状況に応じて抱える課題について受容し、適切に指導を行うことを理解しているか確認する。(グループ討議・ロールプレイング) ・事例研究やフィールドワーク等を通じて、個々の子どもの特性や状況に応じた保育者の役割と学級経営・保育現場における保護者対応を理解しているか確認する。(講義・フィールドワーク) ・模擬授業実施・授業研究を通して教員としての表現力や子どもの反応を活かした指導法等を身に付けているか確認する。(グループ討議・ロールプレイング) ・幼児の歌指導の実践と伴奏指導について身に付けているか確認する。(講義・ロールプレイング) ・子ども達が楽しんで絵を描くための環境づくりや立体製作の支援について理解しているか確認する。(講義・グループ討議・ロールプレイング) 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>教職課程の「学びの軌跡の集大成」として教員として最小限必要な資質能力の修得について確認するとともに、教育に対する使命感を持ち、子どもたちとの関わりを通して教育観や自己認識を深め、教師として成長していく姿勢を身につける。</p>			

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
第1回	1 ガイダンス 教職実践演習の目的と意義 (講義) 2 教職の意義や教員の役割等 (講義)	【沖田・植松】
第2回	3 保育内容等の指導力を学ぶ (音楽表現指導と指導計画) 4 音楽表現指導実践 (歌唱)	【沖田・張】
第3回	5 幼稚園教育現場における実践力 (能動的な学びとは) 6 幼稚園教育現場における実践力 (対話的・協働的な学び) 7 幼稚園教育現場実践からのフィードバック (レポート作成)	【植松・沖田】
第4回	8 子どもの心の動きを捉える (講義・グループ討議) 9 子どもに寄り添うとは? (講義・グループ討議)	【沖田・植松】
第5回	10 保育者の役割 (学級経営と危機管理) (講義) 11 保育者の役割 (子どもの資質・能力を伸ばす指導とは)	【沖田・張】
第6回	12 保育内容等の指導力を学ぶ (造形表現指導) 13 造形表現指導と指導計画 (講義)	【植松・張】
第7回	14 造形表現指導実践 (ロールプレイング) 15 造形表現指導実践の振り返りとまとめ (グループ討議)	【沖田・張】
第8回	16 音楽表現指導実践 (リズム遊び・ダンス) 17 音楽表現指導実践のまとめ (楽器セッション)	【植松・沖田】
第9回	18 保育者としての心構え① (講義) 19 保育者としての心構え② (グループ討議)	【植松・沖田】
第10回	20 教員としての資質とは (講義・グループ討議) 21 教育的な指導と評価 (講義)	【植松・沖田】
第11回	22 保育内容等の指導力を学ぶ (運動あそび指導) 23 運動と遊びの指導と指導計画 (講義)	【沖田・植松】
第12回	24 運動遊び指導実践 (ロールプレイ) 25 運動遊び指導実践、振り返りとまとめ (グループ討議)	【沖田・植松】
第13回	26 気になる子どもへの理解と対応 (講義) 27 保育現場に必要な支援 (ロールプレイング)	【張・植松】
第14回	28 幼児期の人間関係 (講義・ロールプレイング) 29 保護者対応と個人面談 (講義・ロールプレイング)	【張・植松】
第15回	30 教職課程の振り返りと自己課題の確認 (自己評価表作成)	【植松・沖田・張】
[使用テキスト・参考文献]		
山本淳子編、田中亨胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 その他、授業内にて適宜、資料等配布する。		
備考		
定期テストは実施しない		
実務経験[沖田]		
幼保連携型認定こども園 (副園長)、幼稚園 (園長) としての勤務経験を活かして、これからの幼児教育に必要とされる「保育者として求められる資質・能力」について、これまでの学習を振り返りながら、保育現場における子どもたちとのかかわりの中で経験してきた具体的な事例や活動内容などにふれ、より実践的な授業を実施する。		

実務経験[植松]

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

実務経験[張]

カウンセラー・心理士等の経験を活かし、子どもたちの幼児期における遊びや学びの経験が就学後の学業や心身の発達にどうつながっていくかについて解説する。
国際交流活動や外国籍児童生徒に対する支援活動経験を活かし、増加経過をたどる保育・教育現場における多文化共生の課題について考え、より多角的な視点をもつ保育者養成を行う。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育実習		実習	植松 啓子・沖田 健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
実習20日	5単位	1年次・2年次	必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
その他		実習園の評価点・実習態度・指導案・日誌等を(70%)実習に関する各種提出物(20%)事前・事後指導の学習参加態度(10%)を総合して評価する。うち60%以上を合格とし、実習を全うできない場合は単位認定しない。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育実践に関する科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。また、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等についての理解をさらに深めていく。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>幼稚園教育の目的、意義さらに幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学び、幼児期にふさわしい保育の展開がいかなるものであるのかを理解する。1年次の教育実習指導Ⅰにて学習する観察の観点・指導計画の立案・保育実践方法をもとに、1年次の附属幼稚園での観察・参加実習(6日間)、2年次の参加・部分・責任実習(14日間)を通して、幼稚園教育の内容の理解を深め、保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けることで、幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することなど、習得すべき知識や技能等についての向上を図る。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等についての向上を図る。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<p>【1年次：通年】 附属こども園における観察・参加実習(6日間) 実習①：附属こども園にて観察実習(幼稚園の生活と保育の流れを知る。) 実習②：附属こども園にて観察実習(子どもの発達段階と保育者の役割を知る。) 実習③：附属こども園にて観察・参加実習(表現活動の実践) 実習④⑤⑥：附属こども園にて観察・参加・部分実習(保育活動の計画及びその実践) ※1年次の教育実習(6日間)の事前・事後指導は教育実習指導Ⅰ(1年次通年)にて行う。</p>			
<p>【2年次：前期】 幼稚園及び幼保連携型認定こども園における観察・参加・部分・責任実習(14日間) 実習⑦～⑩：実習園における保育の実際(観察・参加・部分・責任実習) ※2年次の教育実習(14日間)の事前・事後指導は教育実習指導Ⅱ(2年次前期)にて行う。</p>			
[使用テキスト・参考文献]			
<p>山本淳子編、田中亨胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 その他、授業内にて適宜、資料等配布する。</p>			
備考			
<p>定期テストは実施しない 教育実習には事前事後指導を含む(1年次・教育実習指導Ⅰ)(2年次・教育実習指導Ⅱ)</p>			

実務経験[植松]

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

実務経験[沖田]

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(園長)としての勤務経験を活かして、幼児教育の目的と子どもの実態を捉えて保育日誌の作成、子ども達の能動的な活動の展開を促す指導案の作成、そして、教育実習に臨む目的とその心構えについて指導する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育実習指導Ⅱ (教育実習)		演習	植松 啓子・沖田 健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
7回	教育実習に含む	2年前期	必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
その他		確認小テスト(40%)、レポート内容(40%)、ロールプレイング等の内容や参加姿勢(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育実習			
[授業の目的・ねらい]			
<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。また、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等についての理解を深めていく。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>幼稚園教育の目的、意義さらに幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学び、幼児期にふさわしい保育の展開について理解することで、教育実習の意義を理解する。 事前・事後指導のポイントとして、指導計画の立案・保育実践方法・保育観察の観点を挙げることで、教育実習における教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けるとともに、幼児に対する観察の視点と指導教員等の実施する保育に対する観察の視点について指導していく。これにより浮かび上がる学生自身の「気づき」を書き記した保育記録を作成することで、「計画」⇒「実践」⇒「振り返り」という過程により、幼児期にふさわしい保育の展開や幼稚園教諭の役割について理解を深めていく。 また、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加するとともに、学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことで、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p>			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<p>これまでに学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付け、2年次の教育実習に向けて、幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践するために必要な課題を認識し、さらに習得することが必要な知識や技能等についての理解を深めていく。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	事前指導①教育実習の実習内容(実習にむけての自己の課題の明確化)		
2	事前指導②実習計画の作成及び書類作成		
3	事前指導③教材及び指導計画の準備Ⅰ		
4	事前指導④教材及び指導計画の準備Ⅱ		
	・令和2年度2年次教育実習(14日間)		
5	教育実習事後指導①実習の反省と好事例・お礼状		
6	教育実習事後指導②自己の学習課題の理解(自己評価シートの記入)		
7	教育実習事後指導③幼稚園教育要領の確認と学習課題の整理		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>山本淳子編、田中亨胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 その他、授業内にて適宜、資料等配布する。</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験[植松]

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として38年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

実務経験[沖田]

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(園長)としての勤務経験を活かして、幼児教育の目的と子どもの実態を捉えて保育日誌の作成、子ども達の能動的な活動の展開を促す指導案の作成、そして、教育実習に臨む目的とその心構えについて指導する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
日本国憲法		講義	松本 隆
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目	小レポート(20%)、授業内確認テスト(30%) なお、小レポート(レビューシート)については、 自分の頭で考えて書いているかどうかを重視します。		
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>小・中学校の社会科の授業で「憲法」の話は聞いたことがあると思います。でも、「憲法は愛であふれている」と感じたことはあるでしょうか。今、みなさんは自由に生きることができますが、そのような自由があるのは「憲法」があるからです。</p> <p>世界には日本国憲法のような法がないために人々の自由がない国があります。この授業の目的・ねらいは「憲法が何なのか」を具体的な事例を通じて把握してもらうことです。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・一見とっつきにくい「憲法」を実務家の立場からできる限りわかりやすく説明します。 ・裁判例については、印象に残るような形で理解してもらえよう工夫した説明を行う予定です。 ・また、憲法を通じて、将来、保育者として「法律を守ることの重要性・意味」も伝えられたらと思います。 ・教員が弁護士であるため、みなさんにとって身近な法律についても取り上げるようにします。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の目的は何か、憲法と法律とで何が違うのか、憲法は誰のためにあるものなのかを理解すること ・具体的な裁判例を通じて憲法が存在する意味を知ること ・その上で、現在の日本において「憲法の果たす役割」を知ること 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス		
2	憲法概念、民主制と天皇制		
3	戦争放棄		
4	基本的人権と公共の福祉①(人権の享有主体、公共の福祉)		
5	基本的人権と公共の福祉②(精神的自由権(思想良心の自由、信教の自由など))		
6	基本的人権と公共の福祉③(精神的自由権(表現の自由)、経済的自由権、平等権など)		
7	基本的人権と公共の福祉④(新しい人権など)		
8	基本的人権と公共の福祉⑤(生存権、教育を受ける権利など)		
9	基本的人権と公共の福祉⑥(参政権、国家賠償請求権など)		
10	統治機構①(三権分立、国会)		
11	統治機構②(内閣)		
12	統治機構③(裁判所)		
13	最高法規、憲法改正		
14	まとめ		
15	基本的人権と公共の福祉(補遺)		
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> ・教員オリジナル実践事例集 ・「檻の中のライオン」(榎大樹(はんどう・たいき)かもがわ出版) ・「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」(長谷部恭男)有斐閣 ・幼稚園教育要領(平成29年3月告示文部科学省)・保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
社会学		講義	今井賢治
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
10回	1単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目		授業中の課題への取り組み、提出物、小テスト【50%】 確認テスト【50%】	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
その他			
[授業の目的・ねらい]			
○一人ひとりの学生が社会の多様性や変化を的確にとらえて、「自分らしさ」追求のための実践的なスキルを磨き、有意な保育士、社会人として活躍すること。			
[授業全体の内容の概要]			
1. 社会学とはどのようなもので、どのように研究を進めていくものか、ということを理解します。 2. 社会学の成立とその後の展開を、それぞれの時代背景を踏まえて概観します。 3. 身近な事象を通して、世の中が生命体のように絶えず変化しているということを把握します。 4. 先人たちの業績や生き方から、自分らしさや社会との係わり方等について、考察を深めます。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
1. 自然界に法則が存在するのと同様に人の営みにも定の法則がある、とする立場に立てる。 2. 人の営みの中に存在する一定の法則がより良き社会をめざす際の道標になる、とする立場に立てる。 3. 「社会の多様性」を受容して「自分らしさ」を追求することが社会問題を解決することに繋がる、とする立場に立てる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	授業の内容		
1	I. 社会学とは ○「統計学」と「フィールドワーク」 ○事例研究 ●Iのまとめ		
2	II. 社会学の成立とその展開 A. 第一世代の社会学者とその時代		
3	B. 第二世代の社会学者とその時代		
4	C. エミグレの社会学者とその時代		
5	D. 今日までの社会学の展開 ●IIのまとめ		
6	III. 現代の多様な社会問題等について A. 家族をめぐる諸問題		
7	B. マナーをめぐる諸問題		
8	C. 働き方をめぐる諸問題 ●IIIのまとめ		
9	VI. 芸術家の偉業・作風などから学ぶ A. 画家レオナルド・ダ・ビンチとパブロ・ピカソ		
10	B. 歌人と謝野晶子と詩人草野心平 ●IVのまとめ		
◎授業全体の「振り返り」と「まとめ」から、それぞれの「自分らしさ」の思索へ			
[使用テキスト・参考文献]			
○テキスト：テキストは特に指定しない。			
○参考文献：『社会学史』大澤真幸著 講談社現代新書 『AERA Mook 12 社会学がわかる。』朝日新聞社 参考書・参考資料等の提示及び指示は、授業の中で適宜行う。			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
数学基礎		講義	浮貝 公雄
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
10回	1単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目	毎時間の課題(30%) 毎授業のリフレクションシート(20%) 授業内確認テスト・まとめも含む(50%)		
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
その他			
[授業の目的・ねらい]			
<p>日常生活における事象を数理的に考察し、数学的に判断し、説明できるための基礎的な思考力、表現力、判断力を育成することを目的とする。</p> <p>1 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考え、判断できる。</p> <p>2 基礎的基本的な知識及び技能を習得し、数学的に考察する力を育てる。</p> <p>3 数学を学習する楽しさや数学の持つ有用性について考えられるようにする。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通して、「予習→授業→復習」の学び方の習慣化をめざします。 ・ 「数と式」「方程式」「関数」「図形」「確率」の学び直しをすることで、基礎的基本的な知識や技能の確実な定着をめざします。 ・ 問題解決を通して、数学が「わかること」「できること」の楽しさを実感できるように努めます。 			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び方がわかり、その習慣化に向けて意識できるようになる。 ・ 基礎的基本的な知識や技能がかなりの割合で定着できる。 ・ 数学が「わかること」「できること」の楽しさがわかる。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	数学の学び方(覚えることと覚えなくてもよいこと) 割合・速さ・濃さを数で表す。長さ・広さ・重さ・時間等の単位換算の基礎・基本		
2	数と式の計算、正の数・負の数の必要性和四則計算		
3	平方根の意味と計算、素数・素因数分解		
4	式の計算、式の値の求め方		
5	式の展開と因数分解		
6	1次方程式、連立方程式、等式の性質		
7	2次方程式、方程式の利用		
8	比例・反比例、1次関数、 $y = ax^2$		
9	図形の基礎、合同と相似、円の性質		
10	場合の数と確率、総まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
オールマイティ数学(富士教育出版)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
英語一般		演習	大久保 勇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目		まとめの問題に対する内容・レポート等の提出物で総合的に評価する。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
[授業の目的・ねらい]			
国際化を踏まえて、保育士、幼稚園教諭として必要な基礎的な英語力の習得、拡充、コミュニケーション能力の育成を図る。幼児を英語に親しませる際の技能の習得も目指す。			
[授業全体の内容の概要]			
保育園、幼稚園に関する様々な英単語、表現を、カードゲームを利用して習得していく。英語の歌、おとぎ話の中で用いられる英語表現を学ぶ。CD、DVDなどの視聴覚教材等を用いて英語のリスニング力を磨く。また、幼児に英語を親しませる方法を学生に考え出してもらう。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
英語の歌や物語を通じ欧米の文化を理解し、英語力を拡充する。保育園、幼稚園における邦人の園児やその保護者と簡単な英語によるコミュニケーションができるようにする。幼児に簡単な英語を楽しく教えられるようにする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年前期		
1	保育に関する英語① マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習① 英語のゲームを通して英語を学ぶ方法の考察①		
2	保育に関する英語② マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習② 英語のゲームを通して英語を学ぶ方法の考察②		
3	保育に関する英語③ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習③ 英語のゲームを通して英語を学ぶ方法の考察③		
4	保育に関する英語④ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習④ 英語のゲームを通して英語を学ぶ方法の考察④		
5	保育に関する英語⑤ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習⑤ 英語のゲームを通して英語を学ぶ方法の考察⑤		
6	保育に関する英語⑥ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習⑥ アニメの英語を利用したリスニング①		
7	保育に関する英語⑦ サウンドオブミュージックの歌の内容理解と歌唱練習① アニメの英語を利用したリスニング②		
8	保育に関する英語⑧ サウンドオブミュージックの歌の内容理解と歌唱練習② アニメの英語を利用したリスニング③		
9	保育に関する英語⑨ サウンドオブミュージックの歌の内容理解と歌唱練習③ アニメの英語を利用したリスニング④		
10	保育に関する英語⑩ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習⑦ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文①		
11	保育に関する英語⑪ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習⑧ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文②		
12	保育に関する英語⑫ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習⑨ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文③		
13	保育に関する英語⑬ マザーグースの歌の内容理解と歌唱練習⑩ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文④		
14	まとめ		
15	まとめの問題の見直し		
[使用テキスト・参考文献]			
教科書・使用しない。 参考文献・保育の英会話(萌文書林)、はじめての英語の歌(学研) ディズニーの英語[コレクション7 シンデレラ](KADOKAWA) ディズニーの英語[コレクション8 美女と野獣](KADOKAWA)、絵本 急行「北極号」(あすなる書房)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
英語一般		演習	大久保 勇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	2単位	2年前期・2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目		まとめの問題に対する内容・レポート等の提出物で総合的に評価する。	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
[授業の目的・ねらい]			
国際化を踏まえて、保育士、幼稚園教諭として必要な基礎的な英語力の習得、拡充、コミュニケーション能力の育成を図る。幼児を英語に親しませる際の技能の習得も目指す。			
[授業全体の内容の概要]			
保育園、幼稚園に関する様々な英単語、表現を、カードゲームを利用して習得していく。英語の歌、おとぎ話の中で用いられる英語表現を学ぶ。CD、DVDなどの視聴覚教材等を用いて英語のリスニング力を磨く。また、幼児に英語を親しませる方法を学生に考え出してもらう。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
英語の歌や物語を通じ欧米の文化を理解し、英語力を拡充する。保育園、幼稚園における邦人の園児やその保護者と簡単な英語によるコミュニケーションができるようにする。幼児に簡単な英語を楽しく教えられるようにする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	2年後期		
1	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習① ハロウィンに関する英語		
2	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習② おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文①		
3	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習③ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文②		
4	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習④ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文③		
5	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習⑤ おとぎ話の英語を利用したリスニングと英作文④		
6	クリスマス歌の内容理解と歌唱練習① クリスマスに関する英語①		
7	クリスマス歌の内容理解と歌唱練習② クリスマスに関する英語②		
8	クリスマス歌の内容理解と歌唱練習③ クリスマスに関する英語③		
9	クリスマス歌の内容理解と歌唱練習④ クリスマスに関する英語④		
10	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習⑥ 映画の中で用いられている英語のことわざ、教訓のリスニング①		
11	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習⑦ 映画の中で用いられている英語のことわざ、教訓のリスニング②		
12	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習⑧ 映画の中で用いられている英語のことわざ、教訓のリスニング③		
13	有名な英語の歌の内容理解と歌唱練習⑨ 映画の中で用いられている英語のことわざ、教訓のリスニング④		
14	まとめ		
15	まとめの問題の見直し		
[使用テキスト・参考文献]			
教科書・使用しない。 参考文献・保育の英会話(萌文書林)、はじめての英語の歌(学研) ディズニーの英語[コレクション7 シンデレラ](KADOKAWA) ディズニーの英語[コレクション8 美女と野獣](KADOKAWA)、絵本 急行「北極号」(あすなる書房)			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
体育講義		講義	福原 千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	2単位	2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目	授業の習熟度(授業内確認テスト)60% 課題30% 授業の取り組み姿勢10%		
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
[授業の目的・ねらい]			
<p>一般教養として身につけておきたい、運動・スポーツの特性・成り立ちについて理解する。 また、生涯を通して健康であること、特に幼児にとって、運動遊びがいかに重要かについて理解する。さらに、 模擬授業として、運動遊びを教え合い、リーダーとしての力を養い、指導技術の向上を目指す。保育・教育現場で必要となる幼児の一次救命処置(AEDを含む)を習得する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>前半は、1年次に学んできた運動遊びを教え合う模擬授業を行う。各自1回はリーダー役、他は子ども役となり、 運動遊びの進め方について実践的に学習する。後半は、健康、運動の重要性、特に子どもの発達を支える 運動遊びの大切さと指導のポイントについて理解を深める。さらに、幼児の一次救命処置について日赤講師に による幼児安全法講習を実施し習得する。また、自らのこれからの健康について考える機会とする。</p>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
<p>幼児にとって、運動遊びがいかに重要かを理解し、保育者として運動遊びを効果的に指導・援助ができる。 幼児の一次救命処置(AEDを含む)を習得し、緊急の事態に対応できる。 生涯を通して健康であることの大切さを理解し、健康に留意して社会人として働くことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	オリエンテーション 幼児期の運動遊びについて		
2	模擬授業①(主に身体を使った伝承遊び)		
3	模擬授業②(鬼遊び)		
4	模擬授業③(力くらべ遊び)		
5	模擬授業④(ボール遊び)		
6	模擬授業⑤(身体表現遊び)		
7	体育、スポーツ、運動の特性と成り立ちについて		
8	幼児期の運動遊びについて①重要性		
9	幼児期の運動遊びについて②効果		
10	幼児期の運動遊びについて③指導・援助		
11	幼児期の運動遊びについて④安全		
12	幼児安全法講習(一次救命処置)日赤講師		
13	働く人の健康について①健康の要因		
14	働く人の健康について②注意点		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
<p>「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編 萌文書林 幼稚園教育要領、保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
体育実技		演習	福原 千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目		実技の習熟度(40%)、授業への取り組み方(20%) 課題レポート(40%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
[授業の目的・ねらい]			
生涯学習、生涯運動に親しむことを目的に、一般教養として身に付けたいスポーツについて実践的に学習する。自ら楽しみ、さらに審判・計時・試合の組み立て方を理解しゲームを主催する力を養う。運動遊び、フォークダンスを指導する力を養う。			
[授業全体の内容の概要]			
ソフトバレーボール、ポートボール、フットサルをチーム対抗戦(トーナメント戦、リーグ戦)で、審判、計時、記録、得点と役割分担し、実践する。夏季課題は運動遊びの指導案を2つ作成する。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
各スポーツのルールを理解し、ゲームを楽しみ、ゲームを主催することができる。 運動遊び・フォークダンスの指導案を作成することができ、楽しく遊びを指導・援助できるようになる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数			
1	ガイダンス、フォークダンス(幼児と踊れるもの)		
2	ソフトバレーボール(ルールの理解、チーム編成、パス、サーブ)		
3	ソフトバレーボール(パス、サーブ、レシーブ、試合(リーグ戦))		
4	ソフトバレーボール(試合(リーグ戦))		
5	ソフトバレーボール(試合(リーグ戦))、次週演習の説明と準備活動		
6	「本学1年生と運動遊びをしよう」の演習		
7	ソフトバレーボール(試合(トーナメント戦))		
8	ポートボール(ルールの理解、チーム編成、パス)、指導案作成の説明		
9	ポートボール(パス、ドリブル、シュート、試合(リーグ戦))		
10	ポートボール(試合(リーグ戦))		
11	ポートボール(試合(トーナメント戦))		
12	フットサル(ルールの理解、チーム編成、パス、ドリブル、試合(リーグ戦))		
13	フットサル(パス、ドリブル、シュート、試合(リーグ戦))		
14	フットサル(試合(トーナメント戦))		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			
必要に応じ、プリントを配布する。 保育所保育指針、幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
備考			
定期テストは実施しない			

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実習Ⅱ		実習	齊藤 静枝・初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
実習 1 1 日(保育所)	2 単位	2 年次	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		実習施設からの評価票 (70%) 実習日誌 (20%) 巡回指導員の報告書 (10%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
その他			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・ 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・ 保育の計画・実践・観察・記録及び評価について、実際に取り組み、理解を深める。 			
[授業全体の内容の概要]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所実習は2年次に11日間90時間以上実施する。 ・ 実習中に、教員の巡回指導を受ける。 			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもについての理解と保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践について理解する。 ・ 実習における自己の課題を明確にする。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能について理解する。 2 養護と教育が一体となって行われる保育の実際を学び理解する。 3 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1)子どもの心身の状態や活動の観察 (2)保育士等の援助や関わり (3)保育所の生活の流れや展開の把握 (4)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 4 保護者や家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する子育て支援 (2)関係機関や地域社会との連携・協働 5 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2)作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 6 保育士の多様な業務と職業倫理について学ぶ。 7 保育士としての自己課題の明確化を図る。 			
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一年次使用教科書一式 ・ 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験[齋藤]

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

実務経験[初谷]

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実習指導Ⅱ		演習	齊藤 静枝・初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	1単位	2年次	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		指導提出案の提出と内容40% 実習報告書の提出と内容40% 実習報告書の発表20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
その他			
[授業の目的・ねらい]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・ 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・ 子どもについての理解と保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践について理解する。 			
[授業全体の内容の概要]			
「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。事前指導では、まず実習の意義や目的、保育所の役割や機能について確認する。乳幼児の発達過程の理解を深める。これらのことを踏まえて指導計画の作成を試みる。事後指導では、個々の実習ノート、指導計画を基に保育を振り返る。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
保育をめぐる自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにする。振り返りや課題、自身の保育観・児童観を言語化し、発表を行う。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	実習に向けての準備		
2	実習に向けての準備(実習課題の設定)		
3	保育の全体的な計画に基づく具体的な指導案の作成		
4	指導計画の作成(0歳児の作成)		
5	指導計画の作成(1歳児の作成)		
6	指導計画の作成(2歳児の作成)		
7	指導計画の作成(3歳児の作成)		
8	指導計画の作成(4歳児の作成)		
9	指導計画の作成(5歳児の作成)		
10	実習に向けての準備(実習前の事前確認)		
11	実習事後指導(実習の振り返り・課題の明確化)		
12	実習事後指導(課題に向けて今後の自己の取り組み)		
13	実習事後指導(報告書作成 テーマの決定)		
14	実習事後指導(報告書作成 仕上げ)		
15	実習事後指導(報告書発表)		
[使用テキスト・参考文献]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河合高鋭・石山直樹編『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい社 ・ 一年次使用教科書一式 参考資料等：幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(2018) DVD「はじめての保育実習Ⅰ・Ⅱ」株式会社新宿スタジオ			
備考			
定期テストは実施しない			

実務経験[齋藤]

公立保育所において保育士(正職)として40年間勤務する内、クラス担任30年、園長、副園長として10年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

実務経験[初谷]

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。